



沖縄語を話す会会報

第9号

2007年8月15日発行

会長 城間 朝昌

事務局（編集室）

〒215-0031

川崎市麻生区栗平2丁目2番9-303

hasama-s8@lime.ocn.ne.jp 國吉 真正

電話 & F a x 044-988-8065



2007年7月7日 夏の宴「勉強会場で」

「^{おきなわ ご はな かい}沖縄語を話す会」 ^{ちち た けーんあち}月に二回集まてぬ勉強会、^{びんちよーい しながわ おーさき}品川ぬ大崎をて

- ・^{うちなーぐち}沖縄口コンプレックス-----前原弘道
- ・^{かみしば え く}紙芝居ー^{ちぢ}此りからん^ぶ続きー欲さん-----仲門勇市
- ・会報に出てきた語句の説明
- ・会報の表記について その③
- ・事務局から

ホームページ⇒ <http://www.wwq.jp/p/>

「おこいきみき?」、戦^{いくさ}終わて、やがて台湾^{たいわん}から引
ち揚げて来、首里^{しゅり}ぬ城^{しやう}西^{せい}小^{しょう}学校^{がっこう}んかい移^{うつ}やびた
ん。

我^わんねー、直^しぐ五^ご、六^{ろく}人^{にん}ぬ同^{どう}級^{きゅう}生^{せい}んかい囲^{かこ}まーさっ
て言^いったる言^{ことば}葉^は一、「おこいきみき」どやいびーたる。

何^{なん}んて言^いっと一、一^{いっ}時^{とち}一、じゃまどい^いがち一、
此^これ一、間^ま違^{ちが}一や無^な一らん、お一え一仕^し掛^かきらっ一と一
さや一んて思^{おも}やびたん。

我^わんねー、「ううーん」て、首^く一横^{よこ}んかい振^ふやびたん。

あん^あんさくど、うぬ^ぐ五^ご、六^{ろく}人^{にん}ぬやな童^{わら}ん達^{ちや}や、「よし」
んて言^いち、合^あ点^{てん}っし、我^わん囲^{かこ}むし止^やみやびたん。

「うちなーぐちフィーリング」んて言^いる書^す物^{ぶつ}書^かちみ
そ一ちやる、儀^ぎ間^ま進^{すす}さぬんかいゆい^すねー、うぬ^ぐ頃^す、首^く
里^しをて一、「はさみ^く言^{ことば}葉^は」んて言^いる言^{ことば}葉^はぬ一と一た
る風^{ふう}儀^ぎやいびーん。

うれ一、言^く葉^{ことば}ぬえ一ざなかい五^ご十^{じゅう}音^{おん}ぬ「か^ぎ行^{ぎょう}」ど
か「ば^ぎ行^{ぎょう}」ぬ音^う入^いって、ゆんたくそ一たんてぬ事^{こと}や
いびーん。

言^い一^の直^ちさびーねー、「おこ^{*}い^{*}き^{*}み^{*}き」んて言^いしえー、
「お一い^いみ。」んて言^いる事^{こと}やいびーん。

直^しぐ「ううーん」て首^く一、横^{よこ}んかい振^ふたる我^わんねー、
助^{たす}か^かと一いびーたしが、うかつ「うん」てち、首^く縦^{びたて}
んかい振^ふたる台湾^{たいわん}から帰^けて来^ちやる我^わん同^{どう}士^し一、学^が校^{こう}
ぬ側^{そば}なかいある艦^{かん}砲^{ぽう}穴^{あな}んかいそ一て行^いかつて、皆^{みな}さ

一に散^{さん}々^{ざん}、たたっ懲^くるさ^さったる風^{ふう}儀^ぎやいびーん。

うんに一ねー、首^{しゅ}里^りぬ小^{しょう}学^が校^{こう}をて一、生^{せい}徒^と同^{どう}志^し一
ぬ話^{はなし}一、諸^{もろ}、沖^{うち}縄^{なぐち}口^{ちか}ど使^{つか}と一いびーたる。

台湾^{たいわん}から引^ひち揚げて来^きやる我^わ達^だんかえ一、諸^{もろ}、解^{わか}
んちん^まぷん^ゆかん^すぷん^{ぐに}どやいびて、全^くち余^よ所^{しょ}国^{こく}ぬ言^{ことば}葉^は
どやいびーる。

別^べぬ事^{こと}やいびーしが、我^わん二^に人^{にん}ぬ親^{うや}一、沖^{うち}縄^{なぐち}をて生^ん
まりと一いびーくと、沖^{うち}縄^{なぐち}口^{ちか}っし話^{はなし}一成^なたる筈^{はず}や
いびーしが、台湾^{たいわん}をてん沖^{うち}縄^{なぐち}んかい引^ひち揚げて来^き
からん、家^やんじえー、むつど沖^{うち}縄^{なぐち}口^{ちか}一さびらんたん。

あん^あんすくど、我^わんにんて一や、沖^{うち}縄^{なぐち}んかえ一、沖^{うち}縄^{なぐち}び
け一んじ使^{ちか}いる言^く葉^{ことば}ぬあん^くでる事^{こと}一、むつど解^{わか}らん
如^{ごと}っし育^{すだ}ちよーいびーん。

さて、「おこいきみき」にち一て一、やつどかつど難^{なん}
一ぬが一やびたしが、うりから日^ひん経^たち後^{あと}、又^{また}ん
うぬ^ぐ五^ご、六^{ろく}人^{にん}ぬやな童^{わら}ん達^{ちや}が揃^{すり}て来、囲^{かこ}ま一さ
って無^な一やびらん。

「あー」んて、言^いち見^みてど言^いびーんで一。

「何^{なん}、うれ一、ど一易^{やし}物^{ぶつ}どやる。」んて思^{おも}て、我^わんね
一、「うわー」どやえ一さにんて言^いびたしが、うっ^た達^だや
大^う笑^{ふわれ}一さびたん。

「うわー」やあらん、「あー」どやるんてど言^いびーん
で一。

あん^あんすくど、「うわー」どやえ一さにんて言^いびたしが、
又^{また}ん、うっ^た達^だや腸^{わた}ぬくふ^ふるか笑^{わら}いどさびーんで一。

あど 後ぬうずめー、うっ^{たー}達が^わ我んに^やんかい言し^ぶみー欲さ
る「あー」^{はつおの}んでる^い発音ー、ちゃーしん言ーゆーさんで
る事、^{くど}我んねー、^{さど}悟らさって^ね無ーやびらん。
うっ^{たー}達や^{たいわん}台湾から^{しゅ}引ち^あ揚ぎて^ち来^わやる^わ我んが、「あー」
んで^ゆ言^{くど}る^{はつおの}言葉ぬ^な発音ー、^{たし}成らんし^な確か^いみーねー、「し
たい」^{ちよーど}うに^{くび}丁度鬼ぬ^ど首んで一^ね取たんねーっし、
^{うぐ}奢て、^{しゅ}んまから^あ引ち^{けー}揚ぎて^ね帰て^ね無ーやびらん。

^わ我んねー、うぬ^{あど}後から^{いっぺー}一杯「^{うちなーぐち}沖縄口コンプレッ
ス」^な成て^ね無ーやびらん。

^{うちなーぐちえ}沖縄口ー、^ち聞ち^なゆしえー、^なバーくる^な成い^なびーしが、
ゆんたく^なすんで^なしーねー、^なちゃーしん^なプレー^なキぬか^なか
やびーん。うれー、^{まちげ}間違ー^ねや^{すい}無ーらん^{じょーせーしー}首里ぬ^{しゅ}城西小
^{がっこー}学校ん^そかい^{じぶん}居る^な時分に、「あー」^なショックぬ^なあてから
^{くど}ぬ事ぬ^{ちぢ}続ち^{ゆい}よーる^{うむ}故やんで^{うむ}思とーいびーん。

^わ我んが「^{おきなわご}沖縄語を^{はな}話^{かい}す会」^いんかい^い入^{びんちよー}っち、^い勉強
ーしえー、^ふいっち^ふーん^く早く^{うちなーぐち}此ぬ「^な沖縄口コンプレッ
クス」^なからぬ^ながーら^なさ^なって、^なうみな^なーく^な成い^な欲^なさる^な為
やいびーん。



^{かみしばえ}紙芝居ー^く此りから^{ちぢ}ん^ぶ続きー^な欲さん

仲門勇市（那覇市）

^{なま}今、^{まいしゅーど}毎週^{よーび}土曜日^とねー、^と図書館、^{こーみんかん}公民館、^{うり}うり
から、^{よーちえん}幼稚園^{わらび}をて、^{ちゃー}童ん^{かみしばい}達ん^いかい^な紙芝居^な見しとーい

びーん。また、うぬ^{わらび}童ん^{ちゃー}達からー、いぬ^なち^なばーと
ーいびーん。

^く此ぬ^{かみしばい}紙芝居^い見^みし^なや^{わらび}が^{ちゃー}ちー、^{ばなし}童ん^{ふー}達と^な話^なー^な小し^なえー
さいっし、^ゆふら^なゆんで^な言し^なえー、「^なボランティア」^なぬ
^{ふんどー}本^{くど}当ぬ^{うむ}事やんで^な思とーいびーん。うれー、^{ちゅ}人ぬ^{うく}行い
びち^{みち}一^{かんぬー}道ぬ^{くど}肝要^なな事やいびーん。又、^{また}楽^{たぬ}し^なむる^な為
^{うぐ}ぬ手^{うむ}んやんで^な思とーいびーん。

「^ゆボランティア」^{ちゅ}んで^な言し^なえー、^な人ぬ^な為^なび^なけーのー
あい^{じちえ}びらん。実ー、^{どー}胸ぬ^な為^なに^なん^な成^なゆんで^なぬ^な考^なー
し、^なうみ^なは^なま^なとーいびーん。

^{わらび}うぬ^{ちゃー}童ん^{まくど}達^{みーくち}が^{かみしばい}誠^{いんー}な^{みー}目口^なっし^な紙芝居^な見^なじ^なゆる^な目、
うり^{かみしばい}から^{しけー}紙芝居ぬ^い世界^いん^いかい^い入^いっち^い行^いち^いゆる^いうぬ^い目、
^{わらび}童ん^{ちゃーどー}達^さ同志^{たげ}ー^{んー}互^{みー}に^{みー}見^{みー}じ^{みー}ゆる^{みー}目、^{みー}うぬ^{みー}目^{みー}見^{みー}じ^{みー}ね
ー、^{いくけーぬ}幾^{ちむんじゅ}回^なん^な肝^な動^なか^なさ^なとーいびーん。

^{また}又、^なまる^{わらび}け^{ちゃー}てー、^{かみしばい}童ん^{かか}達と^な紙芝居^など^なぬ^な関^なわ^なえ
ー^{ぬー}何^{かか}や^なが^なやー、^{いっぺー}うぬ^{かんげ}関^なわ^ないに^なち^なてー、^な一^な杯^な考^なー^なら^なさ^なり
ー^{くど}る^な事^なん^なあい^{わらび}びーん。童ん^{ちゃー}達^{んー}が^{かみしばい}見^なじ^なゆる^な紙芝居^なぬ
^{しけー}世界^ゆんで^ゆ言し^{ぬー}えー、^{ぬー}何^なや^なが^なやー。うり^{かみしばい}から、^な紙芝居^なぬ
^{しけー}世界^{ぬー}や^{ちゅ}何^{ちむんじゅ}ん^{ちから}ち、^む人ぬ^な肝^な動^なか^なする^な力^な持^なっ^なち^なよ^なーが^なや
ー^{くど}んで^なる^な事^なに^{かんげ}ち^なてー、^な考^なー^ない^なる^な場^なに、^{ばー}改^{あらた}み^なて、^なう
ぬ^{かみしばい}紙芝居^{いくけーぬ}幾^ゆ回^{けー}ん^な読^なみ^な返^なさ^なーっし、^{ぶん}うぬ^な文^な化^な取^ない^な入^なっ
と^{よーし}ーる^な様^な子、^{かみしばい}うり^なから、^なうぬ^な紙芝居^なん^なかい^な出^なじ^なて^な来^なゆ
ー^{ちゅ}る^な人^なぬ^な達^なぬ、^なち^なぬ^なよ^なー^なな^な生^なち^な方^なさ^なが^なやー。うん
な^{くど}事^な考^なー^なて、^{かみしばい}紙芝居^{しけー}ぬ^い世界^なん^なかい^な入^なや^なが^なな^な紙芝居^な
そ^なー^ない^なび^なーん。

此りから我んね一、ちゃぬよ一な生ち方すしえ一益
 しやが、又、ちゃーさらー胴らーさる生ち方ぬ成い
 がやーんぞる事、探ゆる為にん「ボランティア」続き
 て行けーやーんぞると思とーいびーん。



会報に出てきた語句の説明

(沖縄語辞典、広辞苑などによる)

- ・やがて：やがて。間もなく。
- ・じゃまどゆん：うろたえる。とまどう。
- ・～がちー：ながら。つつ。
- ・おーえー：けんか。格闘。
- ・やな：悪い意を表す。悪い・醜い・いやな・性悪の・不正な、など。
- ・うぬ頃：そのころ。
- ・ふーゆん：はやる。流行する。
- ・風儀：風儀。風習。風采。なりふり。ようす。
- ・えーざ：間。物と物の間。また、あい間。すき間。
- ・ゆんたく：おしゃべり。
- ・おーいみ：けんかするか。
- ・うかつど：うっかり。
- ・どし：友。友だち。仲間。
- ・艦砲穴：艦砲射撃で空いた大きな穴。終戦直後はいたるところにあって水が溜まっていた。池のようになって子供たちはプール代わりに使って泳いだものである。
- ・そーて行ちゆん：連れて行く。
- ・たたっ懲るすん：打つ。なぐる。やや乱暴な語。上品には「あてゆん」という。
- ・生徒同志ー：生徒同志。「同志ー」は同志の意を表す接尾辞。

- ・諸：皆。全部。
- ・余所国：外国。
- ・むつど：全然。全く。少しも。
- ・あんすくど：それだから。だから。
- ・びけーん：ばかり。ばかり。
- ・やつどかつど：やつと。ようやく。
- ・ぬがーゆん：のがれる。免れる。
- ・ぬがーらすん：開放する。放免する。
- ・あー：豚。
- ・どー易物：容易なこと。やさしいもの。
- ・腸ぬくふるか笑ゆん：おなかを抱えて笑う。
- ・後ぬうずみ：とどのつまり。あげくのはて。
- ・ちゃーしん：どうしても。
- ・したい：でかした。よくやった。したり。
- ・奢ゆん：おごる。たかぶる。
- ・いーくる：大よそ。おおかた。
- ・ふいつちーん早く：一日も早く。
- ・うみなーく成ゆん：心配がなくなる。
- ・いぬち：健康時のような元気。平常と同じ元気。
- ・いーゆん：もらう。
- ・ふらゆん：つきあう。交際する。
- ・～びちー：べき。
- ・奥手：奥の手。秘訣。
- ・びけーん：ばかり。
- ・うみはまゆん：はげむ。熱心に努力する。
- ・目口：表情。顔つき。
- ・まるけーて：まれ（に）。たま（に）。
- ・～がなー：ながら。
- ・ちゃぬよ一な：どのような。
- ・ちゃーさらー：どうしたら。
- ・胴らーさる生ち方：自分らしい生き方。

*本文では、語句は活用されていますので、ここに示しました語句とは必ずしも一致していません。

会報の表記について その③

前回は会報の表記について、特に漢字の使用や振り仮名の付け方をまとめました。

市販されている書物などを拝読しますと、漢字や数字に振り仮名を付けてないものが散見されます。これは沖縄語を初めて習う方々には不親切です。

振り仮名を付けないと、共通語読みされますので、沖縄語を正しく伝えることが出来ません。

この会報では漢字や数字にはすべて丁寧につけています。

今回も引き続いて振り仮名の付け方についてまとめたいと思います。

(B) 語尾が変化するケース

例(1) ○ ^{くくる}心^{な-か}ぬ^{うね}中^{うね}ぬ鬼^{うね}一、^{うんぎて}行^んじやんどー。

例(2) X ^{くくる}心^{な-か}ぬ^{うね}中^{うね}ぬ鬼^{うね}一、^{うんぎて}行^んじやんどー。

語句は文中で活用する場合、語尾が変化する場合がありますが、例(1)は「鬼」の後に長音符号「一」が入ったため「うに」の語尾が変化して「うね」になっています。振り仮名としては変化したものを付けるようにしております。

「鬼」の後に来る長音符号「一」は、共通語の「は」にあたるものであるから、例(1)の共通語は「心の中の鬼^{おに}は逃げていったぞ」となります。

しかし、例(2)のように「うねー」と振り仮名に長音符号「一」も含めて付けてある書物を見受けますが、このようにすると例(2)の共通語は「心の中の鬼^{おに}逃げていったぞ」となります。

しますので、例(2)の表記はよくないです。

このことは沖縄語研究家の船津好明氏の論文に詳しく出ていますので、パソコンをお持ちの方は私どものホームページをご覧ください。「2007年6月18日付沖縄語の学習における助詞と振り仮名の問題」

(C) 共通語の振り仮名

例(3) ^{がっこう}学校→^{がっこー}学校

共通語の単語も沖縄語の中で使えば、沖縄語扱いとなりますので、振り仮名は例(3)のように「がっこう」は、「がっこー」というように表記しております。

・外来語の語尾変化について

外来語はカタカナを使いますが、語尾変化をする場合も変化したカタカナで表記します。

例(4) ^{くんど}今度ぬ^{こーこー}高校どか^{だいがく}大学^{やきゅうぶ}野球部ぬキャン

^ポー、^{じゅーに}十二ぬ^{がっこー}学校ぬ^{な-く}宮古入り^いすんでぬ事^{こと}やいびーん。

例(4)において、「キャンプ」はその後に長音符号「一」が入ったため、「プ」が「ポ」に変化しています。

時々、ミスプリントではないかとご質問を受けることがあります。正しいです。

事務局(編集室) 國吉(眞)

事務局から

今回も貴重な話題を寄せていただき、有難うございました。

この会報は沖縄の言葉にご関心がありましたら、どんなたでも投稿できます。

原稿は沖縄語で書いたのがよいですが、共通語で書いてもかまいません。共通語の場合は、事務局で沖縄語へ変えて掲載させていただきますので、どうぞ遠慮なく送っていただきますようお願い申し上げます。

原稿は趣旨を変えないで、手直しをする場合がありますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

そして大変恐縮ですが、原稿料はお支払いできませんので、会報を寄贈して薄謝に代えさせていただきます。

多くの方々に私どもの活動を知っていただくため、ホームページの内容を更新してあります。どうぞご覧ください。

お問い合わせ

事務局 國吉眞正

電話 044-988-8065

Fax 044-988-8065

沖縄文字一覧と用例

赤い字はこの号で使った字です

と[tu]	とー (鳥)、うと (音)、みーと (夫婦)	ふ[hwe]	ふー (南)、にふーでーびる (有難うございます)
と[to]	とーふ (豆腐)、とーばる (桃原)	へ[he]	へい (おい「目下への呼びかけ」)
ど[du]	どし (友人)、やど (宿)、どー (自分)	や[ja]*	やー (君、お前)、やん (言わない)
ど[do]	どーぐ (道具)、まんどーん (たくさんある)	や[ja]	やー (家)、やん (である)
て[ti]	てーち (一つ)、てーだ (太陽)、てん (空)	ゆ[?ju]*	ゆん (言う)
て[te]	てーく (太鼓)、てーしち (大切)	ゆ[ju]	ゆんたく (おしゃべり)
て[di]	ふて (筆)、ぬーてー (喉)、てきやー (秀才)	は[?jo]*	はーいー (おさな子)
で[de]	でーじ (大変なこと)、ちょーでー (兄弟)	よ[jo]	よーんなー (ゆっくり)
ふ[kwa]	ふじ (火事)、ふっちー (ごちそう)	あ[?wa]*	あー (豚)、あーちち (天気)
か[ka]	かじ (風)、かんない (雷)、かーま (遠方)	わ[wa]	わーむん (私のもの)
ふ[gwa]	にんふん (念願)、ふんく (頑固)	あ[?wi]*	あー (上)、あーりきさん (面白い)
が[ga]	がんちょー (眼鏡、めがね)、しがた (姿)	ゐ[wi]	ゐきが (男)、ゐなぐ (女)
く[kwi]	くー (声)、さっくー (咳)、くゆん (呉れる)	ゑ[?we]*	ゑーキー (金持ち)、ゑんちゅ (ねずみ)
き[ki]	きー (木)、きゆん (蹴る)、きぶし (煙)	ゑ[we]	ういゑー (お祝)、わじゃゑー (災い)
く[gwi]	くーく (越來「地名」)	ん[?N]*	んみ (梅)、んに (稲)、んなじ (うなぎ)
ぎ[gi]	かーぎ (容ぼう)	ん[N]	んに (胸)、んみ (嶺井「地名」)、んなど (港)
く[kwe]	くー (鋏)、からじくー (髪きり虫)	い[i]*	びん (縁)、いだ (枝)
け[ke]	けー (かゆ)、ちけー (使者)	い[i]	いん (犬)、いーび (指)、いちゅん (行く)
ぐ[gwe]	ぐったい (ぬかるみ)	ち[u]*	ちど (夫)、ちーじ (さとうきび)
げ[ge]	げー (害)、にげー (願い)	う[?u]	うと (音)、うーび (帯)
ふ[hwa]	ふー (葉)、なーふ (那覇)	え[e]*△	えーま (八重山)、えーじ (八重洲)
は[ha]	はる (畑)、はぎもー (荒地)	え[?e]△	えーさち (あいさつ)、えーじ (合図)
ふ[hwi]	ふじゃい (左)、ふーど (いるか)	お[?o]	おーじ (扇)、おーさん (青い)
ひ[hi]	ひやみかすん (えい、と言う)	を[o]	をーじ (王子)、をーれー (往来)

「」内は沖縄語辞典による読み方 (自由使用とされていますので、使用許可は要りません。)

* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例 ○とい (鳥)、×とい

△ 音の出だしに、僅かに i をひびかせます。